

平成27年度 地区別父母懇談会 開催

二松學舎大学

父母会報

平成5年5月10日創刊
平成27年10月20日発行
(第90号)

二松學舎大学父母会
(本部・事務局)

東京都千代田区三番町6番地16
二松學舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書



平成二十七年年度二松學舎大学地区別父母懇談会が、六月二十日(土)の山形市を始めとし、七月二十六日(日)まで全国十都市(開催日程順に福島市・宮崎市・金沢市・岡山市・千代田区〔九段校舎〕・高崎市・甲府市・静岡市・大阪市)で開催されました。

菅原学長挨拶



地区別父母懇談会は、父母会の主要事業の一つで、今年で二十二回を数えます。大学から学長・副学長・学務局長・学部長・両学部の教員及び職員が分担して各地に赴き、父母との懇談を行いました。

懇談会の内容は大学の現況、本学の教育方針、学習状況・学生生活・就職状況等についての説明、個別相談でした。父母の関心が高かったのは、「学生の学習状況について」と「大学の現況報告」でした。

九段校舎では、キャリアセンターによる「現在の就職環境とその変化」の講演、教職支援センター・特別講演会として、この春に本学を卒業した新任教員から教員採用試験の体験談を話していただき、好評を博しました。内容については、八ページに掲載していますので、ご一読下さい。



(ともに東京会場・九段校舎)

六月二十日(土)の山形県を皮切りに全国各地で父母懇談会が開催され、父母と大学教職員の交流が行われました。その内容を寄稿していただきました。

山形会場

阿部 礼佳

山形会場の父母会は、六月二十日(土)山形グランドホテルで開催されました。大学より田中文学部教授、押野国際政治経済学部教授、西園教務事務部長、小沢入試課課長補佐に御出席いただき、山形・秋田・宮城から十名の父母が参加されました。

昨年は、初めての参加だったため、緊張して出向いていきましたが、大学の現況・学習状況・学生生活など、きめ細やかな説明をうけ、大学を身近に感じることができ、今年も参加しました。懇談会では、昨年と同様、和やかな雰囲気の中で、父兄の自己紹介から始まりました。そこで、昨年も参加された方とまたお会いできて、子どもの近況報告等でき、話はずみ心安く思いました。先生方からは、大学の理念、取得できる資格、学校の施設の様々な活用の仕方、さらに学生支援、就職状況について詳しくお聞きすることができました。

大学が関東にあるため、地方出身



の学生はどのように就職活動をすすめていくべきか不安があったのですが、キャリアセンターを利用することを教えていただき、以前よりも不安が軽減されました。また、今回も東北地方出身の学生、保護者に対し、遠方はるばる山形の地で説明会を開催していただいたご配慮に心から感謝申し上げます。子ども達に、二松學舎大学で学んだことを社会に貢献できることを希望しつつ、父母会の益々の御発展を祈念いたします。

福島会場

北條 稚恵

六月二十一日(土)、ホテル辰巳屋に於いて福島会場の父母懇談会が開催されました。大学からは田中文学部教授、押野国際政治経済学部教授、西園教務事務部長、小沢入試課長補佐にお越し頂き、父母六名が参加しました。

大学の行事に参加するのは初めての事で、緊張し大学の現況、学生の学習状況、学生生活についてお話しする教授の方々に最初は近寄り難い感じが致しましたが、和やかな昼食時の雰囲気私の緊張も解れていきました。保護者の方々とも交流させて頂き、皆さんの学生生活での悩みや不安を聞かせて頂き、我が息子に重なり大変参考になりました。

大学には学生を支援するサポート体制があり、きめ細やかな対応に、「息子がこの大学に御縁を頂く事ができて本当に良かった。」と安心致しました。

個別面談でもゼミの先生のコメントと時間割表、成績表を元に私の疑問に丁寧に御説明くださり先生方の熱意ある血の通った教育姿勢を実感し感激致しました。前年の懇談会は



なんとなく出席を躊躇してしまい、参加しませんでした。このような有意義で素晴らしい懇談会に毎年でも参加するべきだったと最終学年にして後悔しております。

二松學舎大学及び父母会の益々のご発展をお祈り申し上げますと共に、今後も父母懇談会開催をお願い申し上げます。

宮崎会場

白川 智洋

梅雨の晴れ間となった六月二十一日(日)、宮崎会場の父母懇談会が宮崎市のホテルメリージュで開催されました。大学より原文学部教授、飯田国際政治経済学部准教授、濱野教務課長補佐、大上入試課長補佐の四名にお越し頂き、父母は宮崎・鹿児島から五家族七名が参加されました。

宮崎からは遠い東京・九段の地。容易に上京とはいきませんので、大学を身近に感じようと初めて参加させていただきました。また、娘が入学してからは、大学のホームページを毎日のようにチェックする二松學舎フアンの一人ですので、ある程度の知識を持ち参加いたしました。

先生方から大学の状況や学生の学習状況・就職状況、各学年で取り組むべきこと、そして何よりも親身になつて真剣に学生と向き合っていただいていることなど、小規模大学ならではの強みと家庭的な温かさを直接感じる事ができた有意義なひとときとなりましたし、二松學舎大学が一三〇年以上続いていることに納得できた時間ともなりました。

梅雨の晴れ間は、ブルーな気持ち



をいい気分にはさせる褒美のように思えますが、今回の父母懇談会も遠い地へ我が子を預けている父母が安心できた大学からの素敵なお褒美となりました。感謝いたします。

二松學舎大学及び父母会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。

石川会場

熊谷 恭子

六月二十八日(日)金沢都ホテルにて、石川会場の父母懇談会が開催されました。大学からは森野崇文学部教授、土屋茂国際政治経済学部教授、勇健一学生支援課係長、入試課の福村哲弘氏にお越し頂きました。参加者は石川と富山から、合わせて四家族六名でした。

最初に森野教授より大学の現況について、次に勇係長より学生の学習状況や学生生活についてお話し頂きました。進級と卒業の要件や専攻・ゼミについて、各自の時間割と成績通知書とを照らし合わせながら聞くことが出来ました。また就職について、Uターン就職や教職に関しても詳しく説明して頂きました。

そして大学紹介のDVDを見ながらの昼食後、土屋教授には、父母からの質問の一つ一つ丁寧に答えて頂きました。特に三年次から始まるゼミに関して、人気のあるゼミへの集中に対応する為のご苦労が窺えました。

最後に個別相談がありました。お忙しい中、日頃の息子をよく知る先生からのコメントも頂き、ありがとうございます。最近あまり息子と連



絡をとっていなかったのですが、大学での様子を知り、何とか無事に過ごしているようで、ほっとしました。学生の少ない地区にもかかわらず貴重な機会を設けて頂きました事、感謝しております。大学及び父母会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

岡山会場

西山 一二一

岡山会場の父母懇談会が、六月二十八日(日)岡山メルパルクホテルにて開催されました。大学からは、文学部長江藤茂博教授、国際政治学部長中山政義教授、小西明徳学生支援課長、中原敬二入試課長の四名に出席頂き、先ず始めに、小西明徳課長より大学での現状報告や学生生活、学習状況を始め、これからの時間割、留学に対しての説明をなど、きめこまやかなお話しが聞けて、親子だけでの会話では、分からなかつた部分が、本当に解りやすい説明で安心できました。昼食時には、創立者の三島中洲先生のDVDを拝見し、なごやかな雰囲気、自身の解りえなかつた二松學舎大学の歴史が勉強でき、大変に良かったと思います。

今回懇談会に出席して感じた事は、大学の先生方が、一人一人の学生に対して目が行き届き、先生方の情熱愛情を感じる事ができ、安心してお預けする事の出来る大学と改めて思いました。

そんな中、今回の岡山会場での出席者が私一人だった事が非常に残念

でしたが、それ以上に一人の為に素晴らしい会を開催して頂き、心より感謝し大学および父母会の益々のご発展を祈念致したいと思います。



東京会場

川上 利恵

東京地区の父母懇談会は、七月四日(土)九段校舎一号館の中洲記念講堂において開催されました。

学長挨拶に続き、江藤文学部長からは、資料に基づき、履修登録と卒業要件、GPA制度や成績評価の基準について丁寧な説明を頂きました。

個別相談会では、不安や疑問を親切丁寧に教えていただきありがたく思いました。就職に関しては「本人の気持ちを重視することが大切で、最後の意志決定は自分でさせる。」という言葉が印象的でした。その後、

就職に関する講演会では、現在の四年生から変更になった新スケジュールで学生も必死に、もがいていて、学業と就活の調整が困難になったり企業の採用スケジュールが一律になつていないのが現状であることを聞きました。そんな中、親としてできることは、見守り、傾聴、金銭的なサポーターとして陰から、支援するということでした。また、企業の情報、大学からの情報源「キャリアセンター」にも顔を出すと良いことも聞き、積極的に利用するよう息子にも伝えました。

今回で四回目になりますが、大学を身近に感じられる父母懇談会を毎年、楽しみにしていました。学生一人一人に目が行き届き、アットホームな雰囲気の中で学ぶことができ、良かったと改めて実感致しました。先生方の誠意と熱意に触れ、大学を近い存在に感じられる機会を頂いたことに感謝致しますと共に二松學舎大学、及び父母会の益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。



群馬会場

杉原 千春

七月十九日(日)、群馬会場の父母会は、高崎ワシントンホテルで開催されました。大学より、文学部山口直孝教授、国際経済学部押野洋教授、学生支援課小西明德課長、入試課毛塚梨花係長のご出席をいただきました。梅雨明けの猛暑の中、群馬県近隣から大勢の父母が参加させていただきました。

初めに、小西学生支援課長より、大学の現況のお話を伺いました。九段四号館の完成と二号館のラーニングゴモンズとしての改修など、学生の自主的な学びの環境が充実し、一三八年の歴史と伝統の上に新生次世代型キャンパスの様子を知ることができました。我が子がその充実した環境の中で学べることの幸せを感じました。

続いて、文学部、国際政治経済学部の各教授より、教育、研究活動の推進、学習状況、学生生活のお話がありました。また、各自の成績表の見方やGPA制度についての説明、さらに、個別相談まで行っていたいただき、我が子の課題を知ることができました。親としてのキャリアサポー

トのポイントからは、親子のコミュニケーションの大切さを感じました。三年生なので、一層気持ちをはきしめて大学での学びと生活を有意義なものにしてもらいたいと思います。

三島中洲の建学の精神を深く心に刻み、立派な社会人となるよう期待しつつ、父母会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



山梨会場

大木 ミル

七月十九日(日)山梨県常磐ホテルにて父母懇談会が開催されました。全国的に猛暑続きの最中、盆地で暑さでは有名な甲府に大学より菅原学長、森野文学部教授、教務課の増田課長、入試課の小澤課長補佐のご出席を頂きました。そしてなんと！贅

沢なことに父母の参加者は私一人だけだったのです。過去二年間は、東京の大学会場に参加させて頂いたので多くの方々と一緒にさせて頂く中、大学の様子を伺うことができていましたので、申し訳ないやら、もったいないやら、有難いやら何とも豊かな時間を送らせて頂いたひとときとなりました。先生方のお話は温たかなお人柄を感じつつ、今の大学の様子を伺うことができ、準備して下さった資料に心より感謝致しました。中でもゼミの先生からの様子についてお聞きすることができたことが親としてとても嬉しかったことです。家を出て都内で生活する我が子を思うと、地方から上京して大学に通わせている親なら誰しも思うことだと思います(自宅からの通学でも同じかな?)元気なのか、大学に

通っているのか単位が取得できているのか、心配やら不安やらの思いで親のできることはあるのか考えているものだと思います。地方出身の学生家族にとって父母懇談会は有難い企画だと感じました。

山梨は東京の隣県であるにもかかわらず入学者が少ないことを知り、県内の高校や保護者や学生には非二松學舎大学の良さを知って頂けたらと思います。我が子を社会参加させていく最後の学びの場が、子育てを応援して下さる場であることに安心を頂け、親としても社会参加に向けて応援していきたいと思いました。

海外留学を体験させて頂いた昨年にも心より思ったことですが、今回の父母懇談会に参加させて頂き、我が子が社会人になる前の学び場が二松學舎大学で良かったと思います。そして学生と保護者を大切に思っ下さる大学に感謝の気持ちでいっぱいになりました。



静岡会場

小田陽一郎

静岡地区の父母懇談会は、七月二十六日(日)に静岡グランドホテル中島屋にて開催されました。大学からは磯副学長、中山国際政治経済学部長、本学職員二名に御出席いただき、父母は九家族十一名の参加でした。

懇談会は、先生方、職員の方より大学の現況、学生の学習状況、学生生活、海外留学の状況、就職状況などの説明をいただきました。

昼食後、参加した家族全員に自己紹介をしてもらい、先生方との個別面談になりました。面談では、さまざまな事でも親身になつて懇切丁寧に対応していただき、大学側の学生に対する誠意、熱意を感じさせられました。

初めて地区別父母懇談会に参加してみ、静岡の片田舎から一人娘を東京に送り、心配ごとが絶えない私と妻でしたが、この会を通じて安心して大学生活を送れると実感いたしました。

今回、少数の参加者にもかかわらず、このような機会を与えて下さり大いに感謝しましたし、きめ細やか



な対応に私が思っていた遠い所にある大学のイメージとは異なり、身近な存在としてあるという感想で、これには大学側の長年のご努力の跡を伺うことができた次第です。誠にありがとうございました。限りでございました。今後、二松學舎大学及び父母会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

大阪会場

佐藤 英孝

七月二十六日(日)大阪府のホテル新大阪コンファレンスセンターにて父母懇談会が開催されました。大学より国際政治経済学部教授高野副学長、文学部長江藤教授、教学事務部西園部長、入試課中原課長にご出席頂き中部・近畿から七名の父母が参加されました。

昨年は、妻が子供の家に行っている時に、東京会場で参加しました。今回は大阪会場で参加できた事が、良かったと思えました。何故良かったかと思つたのは、少人数だったので大学からの説明がきめ細かくて非常にわかりやすかつたためです。大学の理念及び目標の内容や在籍学生数・教職員数及び履修登録と卒業要件等の説明を受けました。又、子供が二年次だったので成績通知書の見方についても細かく説明して頂きました。

午後からは、意見交換会の時間を取って頂いて、参加者全員の意見を聞いてもらった事が非常に良かったと思います。特に遠方から通っている同じ不安を持っている悩みに対して大学側のきめ細かい対応を聞いて



安心しました。又、就職活動についてもキャリアセンターの活動や学生一人ひとりの進路実現に向けて対応出来ているのが就職率アップに繋がっていると感じました。学生の少ない地区にもかかわらずこのような貴重な機会を設けて頂きまして誠にありがとうございました。大学及び父母会の今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

父母会地区別父母懇談会アンケート 集計結果

1. アンケート回答者数

分 類	山形(10)	福島(6)	宮崎(7)	石川(6)	岡山(1)	東京(145)	群馬(42)	山梨(1)	静岡(11)	大阪(7)	合計(236)
1年生の父母	0	0	0	1	0	17	3	0	6	2	29
2年生の父母	3	1	1	2	1	17	3	0	2	1	31
3年生の父母	1	2	1	1	0	22	3	1	1	0	32
4年生の父母	1	1	1	0	0	24	5	0	0	0	32
学年不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	5	4	3	4	1	80	14	1	9	3	124

() 内の数字は出席者数

2. 父母懇談会実施項目の「有意義」回答数

項 目	山形	福島	宮崎	石川	岡山	東京	群馬	山梨	静岡	大阪	合計
大学の現況報告	3	3	2	3	1	38	8	1	7	4	70
学生生活について	2	1	0	1	1	17	6	0	3	4	35
学生の学習状況について	3	2	2	1	1	44	12	1	6	4	76
就職状況について	4	0	0	1	0	31	5	1	4	5	51
個別相談について	5	3	2	0	0	9	3	1	2	2	27
その他	0	0	1	0	0	3	2	0	0	0	6

3. 父母会活動活性化要望項目

項 目	山形	福島	宮崎	石川	岡山	東京	群馬	山梨	静岡	大阪	合計
地区別父母懇談会の実施	4	3	3	1	1	33	10	1	7	3	66
教員の海外研修助成	0	1	0	0	0	6	1	0	0	0	8
海外研修学生引率者助成	0	0	0	0	1	3	0	0	1	0	5
就職指導に対する助成	5	2	2	2	0	42	9	1	5	3	71
新入生教育に対する助成	1	0	0	0	0	5	1	0	4	1	12
課外活動団体への助成・学生顕彰など	1	1	1	0	0	13	2	0	1	1	20
大学行事への助成	2	2	1	0	0	12	5	0	0	0	22
卒業パーティーの開催	1	3	0	0	0	14	4	1	1	0	24
卒業アルバムの贈呈	1	2	0	0	0	11	2	0	0	0	16
奨学金の給付	1	2	2	1	0	17	7	0	3	1	34
父母会報の発行	2	1	1	1	0	9	5	0	0	0	19
留学生支援に関する助成	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6
弔慰金・災害見舞金の支給	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	7



二松學舎大学父母会では、昨年度より新たな奨学金制度を設け、学生の資格取得に支援を行っております。父母会ホームページに「二松學舎大学父母会成長支援型(資格・能力取得育英)奨学金支給要項」を載せております。

今年度の申請は、十月二十六日(月)から要項を配布し、十一月九日(月)～二十日(金)に一号館三階学生支援課窓口で受付致します。

ご不明な点は、学生支援課までお問い合わせ下さい。

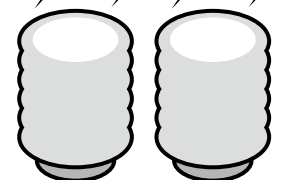
二松學舎大学父母会成長支援型
(資格・能力取得育英)奨学金
の募集

二松學舎大学創縁祭2015 「二松彩縁」

開催日 平成27年11月1日(日) 午前10時～午後6時

開催場所 九段キャンパス

父母会では、12F 1201号室に無料休憩所を設けています。(営業時間は午前10時～午後5時です。) ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。 ※無料のお茶・コーヒー等をご用意しています。



就職に関する講演会 (於・地区別父母懇談会東京会場)

演題 「現在の就職環境とその変化」
講師 株式会社リクルートキャリア

リクナビ編集長 平澤 義博氏

今年度の地区別父母懇談会では、就職活動への親としての関わり方、支援のあり方についての講演会を開催しました。ここで、この講演会の概要をご報告いたします。

今回の講演は、「2015年卒大學生・大学院生の就職状況」、「現在の4年次生から変更となった新スケジュール」、「2016年卒大學生・大学院生の就職状況」、「新スケジュール下において何が起きたのか」、「企業の動向」、「学生の動向」、そして「保護者の皆様へのメッセージ」と、5つのテーマで就職環境の現況と、保護者としての関わり方について、講演されました。

初めに、2015年卒業者の就職状況については、内定率が提示され、前年度に比べて文系、理系いずれにおいても2〜3%向上し、就職環境は好転している、との説明がありました。2015年卒業者につきましては、本学でも同様の結果を得ております。

ついて、大学3年次の3月から就職活動が解禁となるという、制度の説明と、現状についての説明がなされました。引き続き、「2016年卒大學生・大学院生の就職環境」について、求人倍率等のデータに基づいた、新スケジュール下での就職環境について、お話しいただきました。まず、求人倍率は全体としては昨年度を0.1ポイント以上上回っているものの、企業規模別に見てみると、従業員300人未満、並びに300〜399人規模のいわゆる中堅・中小企業において増加傾向にあり、1000人以上の規模の企業群では、ほぼ前年と変わらない、という資料が提示されました。また、学生の状況として、6月1日時点での就職内定状況が34.2%と提示されました。これは、前年の同時期が61.3%であったのに対して27.1ポイント下降している数値である、との説明がなされました。これは新スケジュールの影響により、企業側も例年のように、内定を出しにくい、或いは内定等といった表現を取

らない等の事情によるものと分析しているとの説明がなされました。このことについては、本学においても、学生から同様の相談。「解禁前だけ、内定に近いようなことを言われた」というような相談をされる学生が見受けられました。さて、このようにデータに基づいた現況の説明の後、いよいよ「新スケジュール下において、どのようなことがおこっているのか」ということについてご講演いただきました。

まず、学生側は、「スケジュール感がつかめない」、「企業の足並みが揃っていない」と受け止めているということです。具体的には、新スケジュールでの就職活動は、これまで誰もやったことがない、即ち「先輩の体験談が参考にならない」、「いつの段階で何をすればよいのか不安。今でもこの時期にやっていることが正しいのかわからない」、という不安感、また「8月以前に選考活動を行なう企業があるなど、情報が乱雑で何を信じていいのか分からなくなってしまう」というような不安を抱えている、ということが示されました。本学でも、このような相談を受けたこともあり、その際には、その学生の状況をよくよく聞きとり、それぞれ対応をして参りました。そして最後に、「保護者の皆様への

メッセージ」としてお話しいただきました。まず、学生は先に挙げたような不安、悩みを抱えている、ということ。これはこれまで誰も新スケジュールによる就職活動をしたことがない。モデルケースがないということからくる不安と言えます。そのような相談をしてきたときには、想像や自分たちの経験による回答ではなく、大学のキャリアセンターを利用するよう背中を押してあげてほしい、とのお言葉をいただきました。私共も、是非ともそのようにご案内いただければ、大変ありがたく存じます。そして、最後に就職活動期の学生を保護者はどう支えるべきか、という点について、保護者の皆様の「就業観」、「職業観」等押し付けているのではなく、さりげなく話してあげる、また話を聞いてあげるだけでも支援となる、更にその気持ちを受け止めてあげる、等日常生活の中でもできることを示され、講演のまとめとし、終了いたしました。

以上、講演会の報告といたしますが、キャリアセンターでは引き続き4年次生の支援等に尽力して参りますので、なにかありましたらキャリアセンターを利用するようお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【就職活動全般について】

大学生の就職活動につきましては、高承のとおり、平成二十七年から企業による採用選考は、八月一日から解禁となるなど、大幅に日程が変更となったところですが、ここで今年の就職活動についての状況等をご紹介します。

まず、採用選考活動については前述の通り、表向きは八月からとなっておりますが現実的には年度当初から採用選考活動を進めてきた企業も多数あり、本学の学生も前期中から就職活動に取り組んできており、夏休み前に内定を得ていた学生も少なからずおります。これは、今回の日程変更は日本経済団体連合会（経団連）が策定した指針によるものであり、経団連に加盟していない企業や中堅・中小企業、又は外資系企業等は年度の初めから採用選考をおこなってきたためです。そして、八月を迎え当該指針を順守してきた企業（主に経団連加盟の企業や大手企業と呼ばれる企業群）がいよいよ採用選考活動を開始してきました。

従来の就職活動に関する日程では、年度の初めにいわゆる大手企業が採用選考を行ない、それらが概ね、落ち着いた頃（大体六月～七月）に中堅・中小企業が採用活動を行なう、という流れでした。従って学生の動き方も、まず大手企業を受検し、その後に中堅・中小企業に目を向けるというものでしたが、今年の就職活動では、中堅・中

小企業が先行し、その後に大手企業が動き出すという、従来とは全く逆の流れとなりました。そのため早めに内定を出していた企業でも、辞退者が多く出る、または内々定を出したものの入社承諾を保留とする学生が多く出る等の現象が多くみられ、企業側にとつてはなかなか内定者を確保できない、採用予定者を充足できないという状況であるという声を各方面から、伺っております。一方、学生の側にたつてみると、このような流れの結果、早期に内定を得ていた学生も就職活動を継続するという学生も、少なからずおり、結果的には就職活動自体が長期化してしまっている、ともいえます。

このように新しい指針のもとにはじまった平成二十七年の就職活動は、企業側、学生側いずれにとつても、従来にはない問題が発生しております。私達としましては、ここで判

明した課題等につきまして、は次年度以降の支援、指導に役立てていきたいと考えております。さて、このような状況のなか、夏休みも終わり四年次生にとつては卒業まで残すところ半年となりました。様々な事情によりまだ、進路決定に至っていない学生につきましては、引き続き、あらゆる支援活動を行なって参り、一人でも多くの学生が卒業までに進路をきめられるよう尽力して参りま

すが、以下四年次生対象の支援活動をはじめ、今後の予定について、ご紹介いたします。

【三年次生対象 個人面談】(十月一日～) 本学では、毎年三年次生全員を対象に、個人面談を実施しております。この面談で、現時点での進路希望を確認しあい、今後の就職活動や、各種の採用試験に向けた準備に取り掛かるよう指導して参ります。

【四年次生対象 就職力アップ講座】(十月十九日開催) 就職活動を継続している四年次生を対象に、これまでの就職活動の振り返りと、自己分析の見直し、そこから発展して、さらに説得力のある自己PRを考える講座です。ここ数年実施してきた講座ですが、この講座を受講した直後に内定に結びついた学生も多くみられます。



【四年次生対象 学内合同企業説明会】(十月八日～) 就職活動を継続している四年次生を対象に、採用活動を継続している企業を招聘し、学内で合同企業説明会を開催します。また合同企業説明会は、一人でも多くの学生が内定を得られるよう、引き続き開催して参ります。

【インターシップ成果報告会】(十月二十六日開催) 今年も多くの学生が、夏期休業中にインターシップに参加してきました。本学では企業等と協定を取り交わ

し、夏期休業中に三年次生を派遣し、また、春期休業に一、二年次生をインターシップに派遣する予定です。今回は、夏期休業中にインターシップに参加した三年次生に、インターシップで学んだ成果等を報告・発表してもらいます。この報告会にはインターシップ学生を受け入れていただいた企業の人事担当者を招聘して、その企業の方々の前で、学生が報告・発表をする、という会です。このように報告・発表する事によって、インターシップで学んだことの振り返り、また企業の方々の前で、自身の言葉で話をする機会としております。

【全学年対象 ニュー入時事能力検定】(十一月十四日開催) 企業への就職に限らず、時事について理解を深めることは重要なことです。この検定は全学年を対象としておりますが、下級生のうちから時事、社会について関心を持ってもらうきっかけとなるよう、多くの学生に受検してもらいたいと考えております。

このほか、秋から年度末にかけて、四年次生に向けては引き続きの就職支援、下級生には各種の検定試験や、研究会等を開催し学生の就職支援として参ります。繰り返しになりますが一人でも多くの学生が、希望する進路にたどりつけるよう、全力で支援をして参りますので、ご家庭におかれましては、キャリアセンターを利用するよう、お声掛けいただければ幸甚に存じます。

オーストラリア語学研修 報告

平成二十七年八月八日から八月三十日までの約三週間にわたって、オーストラリア・クイーンズランド大学の附属語学教育機関 (CITE-JO) において、「オーストラリア短期海外語学研修」が行われた。文学部、国際政治経済学部から計十五名(男子八名・女子七名)の学生が参加し、前半を西川雅子特任講師、後半を高橋美智子特任准教授が引率した。本研修は、平成二十五年度から毎年開催され、今回で三回目の実施となった。午前中はコミュニケーション力強化に重点を置いた英語授業、午後には教室内外で様々なアクティビティや日帰りの小旅行が組まれ、充実した内容となっている。授業では、グループワークやプレゼンテーション、現地大学生へのインタビュー等実践的な英会話に取



り組み、オーストラリアと日本の文化・社会に関するゲスト講義を受講した。また、現地大学生との市街地散策やスポーツを通しての交流、クイーンズランド州を代表する国立公園や動植物園の見学などを通して、オーストラリア固有の豊かな自然に触れ、多民族社会への理解を深めた。本学では毎年六月、オーストラリア(シドニー工科大学)への一年間の派遣留学の審査会が行われるため、本研修の経験を活かして、多くの学生が長期の海外留学にチャレンジすること期待がされる。今後の学業や将来のキャリアにおいてグローバルに活躍するための、最初の一步として役立ててほしい。

(国際交流センター 三島周二)

「夏期オーストラリア語学研修に参加して」

国際政治経済学科 二年 西山 愛

今回私は、三週間のオーストラリア語学研修に参加させていだいた。オーストラリアでの生活は、ホームステイをしながら現地の大学に通い、休日にはオーストラリアの伝統的なお祭りに参加したり、遊園地に行ったりした。現地の大学での授業は、オーストラリアの文化や言語を学んだり、与えられたお題でプレゼンテーションをしたり、様々なアクティビティが組み込まれていてとても有意義な研修生活を過ごす事が出来た。クラスが日本人だけで構成されていたことに少し物足りなさを感じたが、授業や現地の大学生との交流を通して、日本との違いを実感することも出来た。

ホームステイでは、私以外にも二人の留学生がいた。二人とも流暢な英語で会話をしていて、最初は聞き取ることも難しくて自分の力のなさを実感した。でも、二人の留学生を含めホストファミリーの方たちも親切な方ばかりで、夕食後に英語での会話の機会を設けてくれたおかげもあり、帰国する前までには聞き取る力をつけられたことを実感した。また、ホームステイをすることで



自立する力がついたと思う。三週間という短い期間ではあったが、交通機関や言葉が通じないことの不便さを感じ、改めて日本の良さを感じたと共に、もっと英語が話せたらまた違った三週間を送れたのかなと感じ、英語に対する意欲を上げることが出来た。日本では出会うことの出来なかった現地の方々と交流をし、日本に帰ってから連絡を取れる友達が出来たこと、これが私の一番の収穫だ。

この様な機会を与えてくれた大学、両親、そして一緒に参加した仲間への感謝をしたい。

私の 学生時代



文学部 教授
原 由来恵

古典文学作品では、登場人物にとつて大きな出来事が起こった際、「縁にある」「縁や深かかりけむ」といった表現をすることが多い。また、そこに描かれる様々な出会い、その人たちの運命を決めていく作品の大切な要素となっている。

二松學舎大学での学生生活は、まさに、人・物・事との「縁」「出会い」の大切さを教えてくれた。そして今の私の基本のひとつとなっている。その一例は、本学の卒業生、現在本学特任教授、重要無形文化財保持者大藏流狂言方大藏吉次郎先生とその狂言であった。

入学した頃、将来の夢は舞台役者であった。そのため大学での勉強のみならず、様々なことにチャレンジしたいと思っていた。狂言のクラブがあると聞き、見学したその日のうちに入学した。正直に言うと、「役者になるならプラスかな？」くらいの軽い考えであった。ところが、いざ始めてみるとこれが難しいの一言だった。クラブ運営しかり、練習し

かり。ただその度に、仲間や先輩、後輩から教えられることが大切な糧になっていった。そして何よりも大きかったのが、大藏先生の学生に対する誠実なご指導とお人柄、さらに狂言が持つ研ぎ澄まされた日本の伝統文化、言語表現の素晴らしさと面白さだった。いつしか日本をもっと学びたい、発信したいと思うようになっていった。それ以降も様々な「縁」と「出会い」によって今の私の研究があるが、それはまた別の機会に。

その狂言研究会はクラブ創立五十年。十一月二十二日に毎年恒例の国立能楽堂研修舞台で自演会を開催する。私もまたその舞台に立つ。二松學舎は一三八年を迎えた。小さな大学だが、歴史と小さいからこそ大きな出会いが待っている大学である。学生達との出会いを大切に、またその出会いが学生たちの確かな将来に繋がる時間になって欲しい、「縁」と「出会い」から大きく羽ばたいて欲しいと願っている。

秋晴れの清々しい空が嬉しい季節となりました。さて、本学の学生相談室は十月から一号館の十一階に移転しました。相談室の立地は、相談室の運営にとつて意外と重要な要素です。立地によって、相談に訪れる学生さんのカラーも微妙に変わってくるようです。これまでの学生相談室は、通学時に前を通る別館にありました。ふらつと思いついて立ち寄る学生さんにも便利な立地でした。今回の相談室は、学生さんが通常授業を受けたり課外活動をしたりする環境からはちよつと離れていて、ふらつと立ち寄る立地ではありません。でも、静かなところが好きな学生さんには、ほつとする環境でしょう。面接室の窓からは都心の風景が一望に見渡せます。開かれた視界はきつと私たちの気持ちも開いてくれるのではないのでしょうか。空や街路樹の色に、季節感のある話題が増えそうな予感です。とはいえ、どのような立地でも一長一短があるものです。スタッフは長所を最大限活かし、不足を補う工夫を心がけています。

秋晴れの清々しい空が嬉しい季節となりました。

さて、本学の学生相談室は十月から一号館の十一階に移転しました。相談室の立地は、相談室の運営にとつて意外と重要な要素です。立地によって、相談に訪れる学生さんのカラーも微妙に変わってくるようです。これまでの学生相談室は、通学時に前を通る別館にありました。ふらつと思いついて立ち寄る学生さんにも便利な立地でした。今回の相談室は、学生さんが通常授業を受けたり課外活動をしたりする環境からはちよつと離れていて、ふらつと立ち寄る立地ではありません。でも、静かなところが好きな学生さんには、ほつとする環境でしょう。面接室の窓からは都心の風景が一望に見渡せます。開かれた視界はきつと私たちの気持ちも開いてくれるのではないのでしょうか。空や街路樹の色に、季節感のある話題が増えそうな予感です。とはいえ、どのような立地でも一長一短があるものです。スタッフは長所を最大限活かし、不足を補う工夫を心がけています。

学
生
相
談
室

だ
よ
り
90

カウンセラー・教授 改田 明子

例えば、学生さんとの相談も似ています。思いどおりにいかないことが多い現実のなかで、手持ちの資源の長所をできるだけ活かして、不足を補う工夫力が育つように、学生さんとの共同作業を続けてゆきます。この共同作業は試行錯誤の連続です。たとえば、「アルバイトをしてみようか」というアイデア。よほど無謀な仕事ではない限り、「やってみたら」とサポートします。やってみて続かなかつたら、「むずかしいとわかつたね。経験値一つアップしたね」と。一歩踏み出す勇氣があること自体が、喜ぶべきことでしょう。手探りで何かを始めようとするときは、ちよつとだけよい期待の側に肩入れして、サポートしたいものです。

学生相談室も、また新しい一歩を踏み出しました。これからそどこどのような対話かわされるのでしょうか。スタッフ一同、期待を込めて準備してきました。秋 semester が始まり、ご家庭でも気になる様子がありましたら、どうぞご相談ください。直通電話(03-3265-3760)です。

佐藤 晋ゼミナール

佐藤晋ゼミナールでは、日本の集団的自衛権問題や領土問題など、日本の政治的問題や国際社会の問題を、ゼミ生主体のグループワークで理解を深め、ディスカッションやディベートで自分の考えを主張する方法を身につけています。というのもキャリアアセンター長でもある佐藤先生は、私たち学生の就職を第一に考えてくれていて、そのためには自分の頭で考え、自分の言葉で主張できるようにすることを目標とされているからです。佐藤ゼミは、ゼミ生同士の仲がよく、毎週のゼミ活動も和気

あいあいと楽しく活動でき、国際社会における日本の立ち位置はいかにあるべきかといった課題に答えを出せるようにゼミ生一丸となって頑張っています。具体的には、近隣諸国との外交関係や、アメリカとの安全保障関係、少子化問題対策や移民受け入れの是非など、幅広く日本を取り巻いている問題についての最適解を追求しています。ほかに就職活動で大切になってくるSPIや時事問題などの対策も行ってくれ、就活時期には履歴書やエントリーシートへの添削もしてくれ、正規の講義時間以外でも色々なサポートを受けられます。また、卒業生や四年生が私たちに就活や仕事の話をしに来て

国際政治
経済学科
三年
大和 健太



五月女ゼミナール

五月女ゼミナールでは、『竹取物語』に始まり『源氏物語』などの作り物語と呼ばれるジャンルの中に見られる和歌を取り上げ学んでいます。岩波文庫『王朝物語秀歌選』をテキストとし、序盤は発表に向けての基礎的な知識や映像作品鑑賞を中心とした講義で、以後は各自が興味を持った歌について口頭発表を行ないます。卒業研究はゼミナールで学んだことを活かしていれば、どのような内容でも構わず、非常に多くの分野にわたって研究をすることができます。例えば、

自分が発表をした和歌だけでなく、そこから得たものから物語全体を研究することや、現代での扱われ方について派生したり、漫画や映像作品などと比較研究をすることも可能です。夏休みに実施される合宿では、京都府宇治市で『源氏物語』における宇治十帖と呼ばれる巻とゆかりのある古跡を実際に自分たちの目で見て回り物語の情景や背景を学びます。また源氏物語ミュージアムや平等院鳳凰堂を見学し、宇治十帖の時代背景について理解を深めることができます。夕飯の時には、ゼミ生一人一人が自分の将来について語り、先生からのアドバイスを受けることで卒業後の進路について真剣に

向き合える場となります。二十人のゼミ生が五月女先生のご指導の下、しっかりと勉学に励んでいます。男女比率では女子の方が多くですが、男子も女子も仲が良いです。担当の五月女先生は発表の際や普段の学生生活でも親身になって指導をしてくださり、とてもやりがいを感じられるゼミナールです。
国文学科三年
伊澤 諒



編集後記

六月の西日本を襲った台風被害に続き、九月には豪雨によって関東・東北地方が甚大な被害を受けました。鬼怒川の氾濫では、本学生にも被害が及んだと聞いております。被災された学生やそのご家族の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。さて、昨年度から始まった父母会奨学金制度ですが、学生やキャリアセンターからの意見などを参考に再検討を重ね、対象となる試験や資格の種類を増やし、支給区分と金額の見直しを図りました。学生の皆さんには、ぜひこの奨学金制度を活用し、就職やスキルアップに役立てていただけるよう、父母会として今後も応援していきます。

この会報が届く頃となりますが、「創縁祭」が十一月一日に開催されます。今年は日曜日だけの開催ですので、開催時間などホームページでご確認ください。父母会でもコーヒーやお菓子を用意した休憩所を設けます。卒業パーティーの様子や父母会の活動等も掲示しますので、皆様お誘い合わせのうえ、ぜひお立ち寄りください。役員一同、笑顔でお待ちしております。